

“憲法9条を守ろう”と京都の著名人らが呼びかけた「憲法9条京都の会」が、6月29日結成されました。代表世話人には有馬頼底（臨濟宗相国寺派管長）、安齋育郎（憲法9条メッセージプロジェクト代表）、梅原猛（哲学者）、茂山千之丞（狂言役者）、瀬戸内寂聴（作家）、鶴見俊輔（哲学者）の6氏。つどいには、1000人を超える市民が参加。参加者は、外にも溢れ、安齋さん、鶴見さん、瀬戸内さんのお話に深い感動と連帯が広がりました。

「憲法9条京都の会」発足

代表世話人

有馬頼底、安齋育郎、梅原猛、
茂山千之丞、瀬戸内寂聴、鶴見俊輔

6氏



「憲法9条京都の会」結成の集いで、瀬戸内寂聴さんのお話の一部を紹介します。

戦争反対に命かける

瀬戸内寂聴さん

考えの違う相手を認めなきゃ

私はずっと一人でやってきました。命をかけてイラクへ薬を持って行き、病院の先生から“どれだけの子どもと病人が助かったか分からない”と手紙を頂き、涙が出ました。どこの国の人も一人ひとりはいいい人なんです。それがなんで戦争をするのか。国をつかさどる政治家が利益のため、石油、お金のためにけんかをするんです。自分と相手が考えが違うのは当たり前、考えの違う相手を認めなきゃいけない。想像力を働かせて、相手の痛みをわが身の痛みとする心があれば戦争なんてできません。

戦争くらい愚劣なことはありません。

結婚して北京に行き、日本人がいかにも中国人に横暴なことをしているかを見ました。北京で終戦を迎え、殺されると思いました。終戦の翌日、そっと戸を開けると「仇を報いるのに恩を持ってす」と書いた張り紙があったんです。日本人をいじめるなどということです。

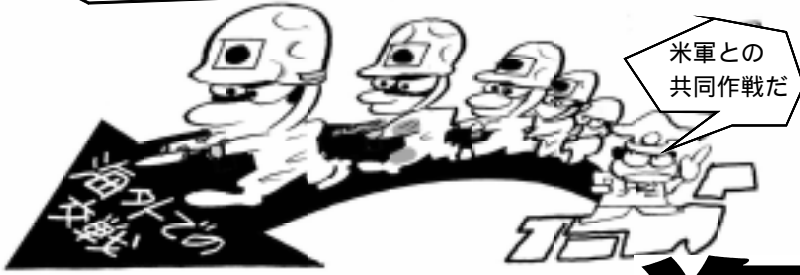
殺すなかれ、殺されるなかれ

仏教の戒律で一番重要なのは「殺すなかれ、殺されるなかれ」です。私はこれだけは守ろうと思いました。戦争は絶対にいけない。仏教徒としてもそう思います。私は戦争反対に命をかけます。



平和憲法愛する京の心を全国へ世界へ

いつでも、何処へでも 自衛隊を派兵できる



恒久法3つの問題

政府の判断で いつでも派兵

国際の平和及び安全を維持するために日本が必要と認めれば、国連決議や関係機関の要請なしに独自に海外に派兵できるようになります。「国際協調」などといいながら、実際にはアメリカによる突然の自衛隊出動要請にも応える事が目的です。

「後方支援」から 「前線」戦闘へ

これまでの海外での自衛隊の活動は「安全確保支援活動」などの「支援」でした。ところが「安全確保活動」「警護活動」も可能に。これは、アメリカ軍がアフガンやイラクで展開し、住民を虐殺している「掃討作戦」と同様の活動にも自衛隊を出動させることができる内容です。

正当防衛から先制攻撃 自衛隊員が市民を殺傷

海外での自衛隊の武器使用は、正当防衛や緊急避難にこれまで限定されてきました。恒久派兵法ではこの限定を取り払った。先制攻撃が可能となります。しかも、使える武器を「小型武器」に限定していません。アメリカ軍との共同軍事行動を想定しているからです。

自衛隊員が市民を殺戮し、戦争犯罪を犯す可能性があります。

海外派兵恒久法

反対



今なぜ「恒久法」

「イラク特措法」「新テロ特措法」は、期限も目的も限定された時限立法です。

来年、1月には「新テロ特措法」が、来年7月には「イラク特措法」が期限切れになります。昨年11月に特措法の期限が切れ、自衛艦が撤退したように、新たな法律が成立しなければ、自衛隊は撤退しなければなりません。

こんな期限や目的の限定を取り払って、いつでも何処でも自衛隊を海外派兵できるようにするために、「海外派兵恒久法」を作ろうとしているのです。



アメリカの強い圧力

この恒久法を、日本に強く迫っているのがアメリカです。イラクで米兵の死者は4千人を超えまさに泥沼化。巨額の戦費で膨大な赤字を抱え、日本に、カネも人も出せと迫っているのです。

自民・民主間では合意

昨年、10月30日、国民を唾然とさせたのが、福田首相と民主党の小沢代表の「大連立」会談。世論の批判の前に頓挫しましたが、「『恒久派兵』問題では合意した」と報道されています。

新テロ特措法政府案への民主の「対案」に恒久法制定が含まれ、与党も賛成して継続審議となっています。

国民世論がカギ！

来年1月の新テロ特措法期限切れを前にして、引き続き自衛隊を派兵するためには、次の臨時国会で政府は、何らかの対応が迫られます。

憲法違反のイラク派兵や恒久法の策動をストップさせるためには、国民世論が最大の力です。反対の声を強めましょう